

# 胆管癌の検査 について

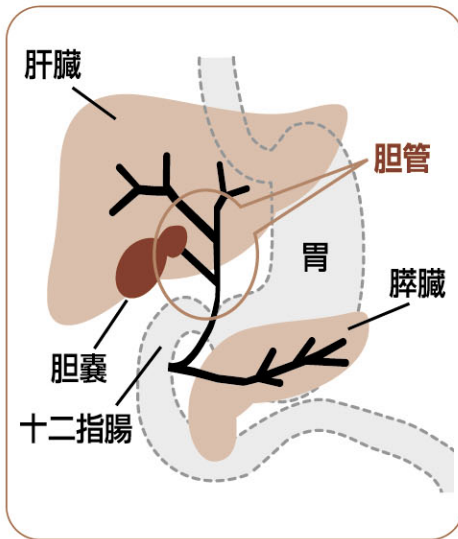
日本臨床検査専門医会  
水島 孝明



皆さんは「胆管癌」と聞いてなにを思われるでしょうか。「タンカンガン？ 昔、ビートたけしの弟子にいたような…」それはタンカンさんです（笑）。

冗談はさておき、胆管癌は最近増えている病気で、なかなか早期発見が難しく、進行癌の状態で見発見されることが多いので、癌の中でも手ごわい種類のひとつです。

胆管は肝臓で作られた胆汁という消化液を、食べ物が通る十二指腸に流し込むための細長い管で、細い管が少しずつ合流して徐々に太くなり、最終的に十二指腸に合流するため、木の枝に似た形をしています（イラスト参照）。途中には胆汁を一時的に蓄え、濃縮し、必要に応じて収縮する、胆嚢という風船のような形をした臓器や、十二指腸に流れ込む直前に膵臓で作られた消化液を腸に運ぶための管（膵管）と接続しています（イラスト参照）。腸に流れ込む部位は少し盛り上がった形をしており、腸液や食物が胆管内に逆流してこない構造となっています。胆嚢に癌ができれば胆嚢癌で、それ以外のどこかに癌ができれば胆管癌です。



■ Q 1：胆管癌はどのような症状で見つかることが多いのですか？

消化液である胆汁の流れが悪くなると、胆汁に多く含まれる黄色い色素「ビリルビン」

が血液中に逆戻りし体が黄色くなる「黄疸」や、細菌の異常増殖が原因となる胆管炎による「腹痛、発熱」、さらに進行癌となると「倦怠感、食欲不振」といった症状もみられますが、なかなか症状が出ないことも多く、早期発見は症状だけからでは難しいのです。

■ Q 2：胆管癌を発見するにはどのような検査が有効なのですか？

血液検査でCEAやCA19-9といった腫瘍マーカー（癌があるかどうかの目安となる検査値）が上昇することもあります。他には超音波検査、CT検査、MRI検査、ERCP検査などの画像検査を組み合わせで診断をします。

■ Q 3：胆管癌を防ぐにはどうすればいいのでしょうか？

残念ながら日常生活のなかで実行可能な予防方法ははありません。しかし、胆石を持っている人や胆管炎を繰り返している人、炎症性腸疾患を患っている人などは胆管癌のリスクが高いといわれていますので、そのような病気を持っている方は、定期的に検査を受けることが望ましいと考えられています。

■ Q 4：胆管癌の治療はどのようなものがあるのですか？

基本的には手術で切除します。癌の範囲が広すぎたり、遠くに転移していたり、医学的理由で手術ができない場合は抗癌剤を使用したり放射線治療を行います。手術ができなければ5年以内に死亡する可能性が極めて高いといわれています。